

# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第461号 平成23年5月



『オダマキ』 田村 啓彦

## 目 次

	頁		頁
1) 感染症だより	西多摩保健所 … 2	6) 専門医に学ぶ	加藤創太 … 8
2) 広報だより		7) 理事会報告	広報部 … 10
福島で被災した後輩に会って	渡邊哲哉 … 3	8) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 14
3) 学術部インフォメーション	学術部 … 5	9) お知らせ	事務局 … 15
4) 第9回会館建設準備委員会報告	小机敏昭 … 5	10) 表紙のことば	田村啓彦 … 15
5) 連載企画		11) あとがき	鹿児島武志 … 16
温泉に行こう	鈴木寿和 … 7		

## 感染症だより

### 〈全数報告〉

第11週(3/14-20)から第15週(4/11-17)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。  
(二類感染症) 8件(肺結核4件 肺外結核1件 無症状病原体保有者0件)

### 〈管内の定点からの報告〉

	11週	12週	13週	14週	15週
	3.14～3.20	3.21～3.27	3.28～4.3	4.4～4.10	4.11～4.17
RSウイルス感染症					
インフルエンザ	63	48	32	40	66
咽頭結膜熱	1	1			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	2	2	2	3
感染性胃腸炎	49	21	39	55	58
水痘	8	10	3	13	10
手足口病			1		
伝染性紅斑	4	2	2	4	8
突発性発しん	1	1	2	3	3
百日咳		1	2		
ヘルパンギーナ					1
流行性耳下腺炎		3			1
不明発疹症					
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎					
合計	129	89	83	117	150

基幹定点報告対象疾病〈細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)〉報告はありませんでした。

### 〈コメント〉

#### ① 都内で麻しんの流行がみられています。

管内の届出はありませんが、4月1日から18日にかけて特別区の区西部を中心に24件の届出があり、4月20日に都は流行に注意する旨のプレス発表を行いました。予防接種が未接種は10人、確定診断16人中10人から海外流行株が検出されました。全国では1週から14週までの報告数は99件(前年は123件)です。

なお、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページに「欧州からの輸入と考えられた麻疹症例」が掲載されております。

#### ② インフルエンザの流行警報が解除されました。

都内では13週の患者数は定点当たり7.76人となり、流行警報が解除されましたが、管内では学級閉鎖の報告を受けています。15週時点では定点当たりの報告数は、管内は4.71人、都内は5.04人、全国は6.42人(定点当たり10人以上は8県)です。

2009年に流行した新型インフルエンザは、2011年4月1日から季節性インフルエンザに位置づけられました。

#### ③ 感染性胃腸炎は引き続き注意が必要です。

定点当たり報告数は、15週時点の管内は7.25人、都内は8.44人、14週時点の全国は8.04人です。都内では過去5年間の同時期と比較して多い状況です。管内の定点当たりの報告数は過去5年と同様に漸減傾向にはありますが、引き続き注意が必要です。

## 広報だより



### 「福島で被災した後輩に会って」

羽村市 ワタナベ整形外科 渡邊 哲哉

はじめに、3月11日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災では数多くの方が、直接的な被害に遭っただけでなく、その後の福島原発の爆発による放射線被害、電力の供給不足、風評被害で東北、関東圏内の多くの人の生活に影響がありました。さらに西日本などでも同様な風評被害により観光客の減少が深刻な状況を生み出しているようです。先日、博多で内科を開業している友人から電話があり、九州電力も原発の点検と場合によっては一部の停止を考えているらしく、夏には計画停電を行うとの通告があったとのことで計画停電の時はどうしたのか聞きたいとのことで電話がありました。各地に大震災によるダメージが大きく発展していく様相を呈しており、結局日本全国を巻き込んだ大震災になってしまいました。現在は東京での生活には大きな影響がなくなりほぼ日常の生活を取り戻しており、医療の現場でも通常通りの診療が出来るようになりました。しかしながら被災した方々は依然として時間が止まったままであり、中々先に進めずに大変な思いをしているようです。先日福島第1原発から10km圏内にある双葉郡富岡にて5年前に開業した後輩が、横浜に避難してきていると聞いたのでお見舞いついでに食事に誘い、大学の友人数人を集めて励ます会を開きました。そこで、どのような状況だったのか詳しく聞くことが出来ました。以下は彼が語ってくれた体験談です。「3月11日の午後の診療が始まっており、骨折の患者の整備を行っている最中に急にグラ

グラ揺れ始め、とにかくものすごい揺れになってあっという間に院内の棚、置物、電子カルテのモニター、テレビが崩れ落ちいつまでたっても揺れが終わらず長い時間の恐怖を味わいました。ひとまず、処置を必要とする患者さんを数名さばいて、まずは通常の診療を打ち切りにせざるを得ないため特に急を要さない患者さんを返し、その後のケガ人の手当を行う事を想定して待っていました。突然、一人の看護師が先生あれは何ですか？と指さしているので見たら、窓から一角だけ遠くの常磐線が見えるところがあり、そこは小高い丘になっているのですが津波が線路を越えて流れてきているのが見えました。海からは1.5km離れていたのでもさか来るとは思わなかったが、実際目の当たりにして靴も履き替えずに全員一目散に海から離れる方へと走って逃げました。町の放送で津波警報が解除されたのを待って、医院へ戻ったところ津波は数百メートル手前で終わっており、医院の浸水は免れてほっとしている所へ数名のけがをした患者さんが来られたので可能な限りの応急処置を行い、その後で近くの病院に何か手伝う事が出来ればと思い行ってみたところ、ケガ人は数名でさほど多くはなかったが津波にのまれて全身がずぶ濡れになり低体温症によるシバリングを起こしている患者さんが大勢いたことが強く印象に残りました。一通りの処置で落ち着いたため医院に戻り、その時点で未だ家族との連絡が着いていなかったのでもう何か連絡をとってみたいでしたが、電話、メールが通じないため分かりませんでした。しかし、家内と子供はその時間福島にいない事は分かっていました。双子の幼稚園に通う子供がおり、その日はお受験のための塾に通

う日で家内と東京に向かっている時でした。後から聞くと乗り換えのため上野駅構内にいて震災に遭ったとのことでした。とても揺れて恐ろしい思いをしたが幸いけがはなく、ひとまず横浜のマンション（実は神奈川の大学病院勤務時に購入したマンションを転居時に売却しようとしていたのですが、買い手がなくて幸か不幸かそのまま持っていたのです）に向かう事を考えたのですが、タクシーは長蛇の列で全然乗れる気配が無く困っているところ、上野の会館が解放されていて食事も地元の方々が準備してくれているという話を聞いて、その日はそこで一晩親子3人で過ごしたとのことでした。翌日はタクシーに乗ることができたのでそのまま横浜のマンションに辿り着いたとのことです。しばらくはお互いの安否が分からずに不安だったが夜中になりようやくメールが通じてお互いの無事を確認することができました。翌日になっても一切のライフラインは途絶えたままで情報が全くない中、子供が持っていたラジオとiPhone、iPadのみが情報源になってくれました。その中でかなりの範囲で火災や浸水が起こっている中をわざわざ菅総理が原発に視察に来るという事を放送していたのを聞いて、原発が大変な事故を起こしているのではないかと一抹の不安を覚え、職員にはしばらくは休診にせざるを得ないので安全な所に避難するように指示し、自分も通帳、印鑑など大切な物と愛犬をRV車に乗せて、本来はここで被災者のために残るべきかと思いましたが、原発の情報が全く分からなかったのでひとまず避難した方が賢明であると判断し横浜に向けて走り出しました。道路は所々大きく盛り上がり、30cm位の段差を乗り越えたりしながら、瓦礫で通れなくなっているような所もあったが、RV車であったことで何とか抜けて来る事が出来ました。ガソリンは半分以上残っていたので途中で長い列を待って20ℓだけ給油出来たことで、13時間かけて何とか横浜の家にたどり着くことができて家族に会えて安堵しました。しかし、報道では福島から避難して来た人に対して何の根拠もなく被曝の

危険人物的な心無い扱いをする方がいるという事を聞いて、本当に辞めてほしいと心から思います。」

時折、目に涙を浮かべながら福島の悲惨な状況を語っていました。現在は、福島にはもう戻れそうもないので横浜の先輩の医院に非常勤で雇っていただいたりして生計を凌いでいるとのことですが、福島にはまだ殆んど壊れていない医院まるごと、自宅、購入したばかりのもう一台の車などすべての財産が置きっぱなしであり、放射性物質に汚染されていれば二度と利用が出来なくなるかもしれない、そればかりか福島の医院に残されたローンはまだまだ多くの残高があるようでした。当然支払い能力が無くなったため地元のメインバンクは一時返済を中止してくれているとのことでしたが、その他の支払いはそのまま支払いを続けなければならず、国保、社保の入金は2カ月後まではあるものの、その後はまとまった収入は無くなるためどうにもならないと嘆いていました。職員の給与支払いも難しいので8人いた常勤職員への対応にも頭を悩ませていました。公聴会に出席してみても国や東京電力に今後の保障をどうしていただけるのかは誰も答えが無いためらちが開かず、県の医師会も現時点で何も手を差し伸べてくれないのでこれまで一生懸命にやってきた医師会の関わりは何だったのだろうとぼしていました。彼が今回の被災で失ったものの大きさは命に比べれば軽いよと言ってしまえばそれまでですが、それまでの苦労が文字通り水の泡と化した現状はこの先も重く申し掛かってきており、彼を目の前にして軽々しく頑張れとはとても言えませんでした。今回の震災で私たちも計画停電には困ったと不平不満を漏らしていましたが、今現在、何とか原発の炉を落ち着かせようと現場で命をかけて頑張っている自衛隊、レスキュー隊、東京電力の社員や被災地で家族を失った方々、ボランティア活動を行い不眠不休で頑張っている方々を思い、日本の復興のために今は我慢して、それより一層頑張ろうと日々感じています。



## 学術部 Information



### 1. 西多摩医師会パネルディスカッションおよび臨床報告会のお知らせ

西多摩医師会学術部では、東日本大震災による様々な事情により、3月中に予定しておりました医師会主催の西多摩臨床報告会(3月15日)および西多摩パネルディスカッション(3月25日)を延期とさせて頂きましたが、開催日程が決まりましたのでご報告させていただきます。

西多摩医師会臨床報告会につきましては、6月21日(火)午後7時30分より公立福生病院1F多目的ホールにて開催させていただきます。発表演題の詳細につきましては、別冊にてご案内致します。

西多摩パネルディスカッション(2011)につきましても、「めまいの外来診療」というテーマで6月16日(木)午後7時30分より公立福生病院1F多目的ホールにて開催致します。先にご案内した通り3人のパネリストの先生方による、症例提示を初めとするご発表と会員の先生方にご協力頂きました、症例に対するアンケート調査の集計結果の発表を予定しています。症例検討の詳細につきましては、別冊にてご案内致します。

### 2. 西多摩医師会学術講演会のお知らせ

学術部では、会員の先生方から要望がございました、予防接種関連の講演会を企画致しました。5月18日(水)に青梅市立総合病院講堂に於きまして「予防接種の最近の話題」ー同時接種とスケジュールを中心にーというテーマで日本赤十字医療センター小児科顧問の菌部友良先生にご講演頂く予定です。予防接種事業に携わる我々開業医にとって大変有意義な講演会になると思われまので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

(学術部担当 江本 浩)

## 第9回会館建設準備委員会報告

日時：平成23年4月13日(水) 午後7時30分～9時

場所：西多摩医師会館講堂

委員に変更あり。新メンバーは以下の通り。

「地区長」 野本正嗣(青梅市)、小机敏昭(あきる野市)、田坂哲哉(福生市)

山川淳二(羽村市)、川間公雄(瑞穂町)、蓼沼翼(日の出町)

川辺隆道(奥多摩町)、田原邦朗(桧原村)

「会長経験者」 西村邦康、松原貞一、宮川栄次、真鍋勉(敬称略)。

委員長互選。小机敏昭委員が選任される。

### 議事

#### ☐今までの経緯

前回、第8回準備委員会は平成20年10月に開催されたが、以後今日まで委員会は開かれず、

今回2年半ぶりの第9回会館建設準備委員会である。第1回～8回の委員会では、色々な移転候補地が上がったが、様々な条件面で折り合いがつかず、最終的に青梅市所有の土地が候補地に絞られ、条件面の交渉に入り、目途がついた所で現在地での建替との比較を行い、どちらが良いか最終決定しましょう、という結論を得ていた。

その後この話の進展もなく時間が経過。昨年になって青梅市所有の別の土地の話が浮上。このため今回の委員会開催の運びとなる。

この間に西多摩医師会館の土地の正式な測量が実施されている。

#### ☒今回提示された土地について

西多摩医師会真鍋前会長、それを引き継いだ横田会長（前委員長）が中心に青梅市と交渉。その中で出てきた「青梅市所有の東青梅1丁目現駐車場（ケミコン精機跡地）の一部」に対し、理事会が「最適」との結論を出し、平成22年12月2日付、横田会長名で青梅市長宛に「新西多摩医師会館建設用地買収についての要望書」を提出。

それに対する青梅市の回答書が平成23年1月19日付で届く。

その内容は、「当該用地に東京都西多摩保健所を誘致、さらに国等の官公庁施設を集約するシビックコア地区整備計画、または新たな市民ホールの候補予定地でもある。このため、この土地の活用方策については総合的に検討中。これらを進める中で趣旨を踏まえて検討してまいります。」とのこと。

青梅市としては、「医師会の事業等基本方針、具体的要望等を書面にて提出して欲しい。」との依頼あり。

そこで、現執行部が「新会館のビジョン」を作成。理事会の承認を得て、今回このビジョンを検討するため、第9回会館建設準備委員会の開催となった。

#### ☒新会館のビジョン

案として、予防接種センター・産業保健センター・地域連携センターの設置・市民対象の各種講演会・セミナー・医療相談会・講習会等の開催、災害・新型インフルエンザ等有事の医療拠点、市民への開放スペース・ライブラリーの設置などが挙げられた。

Q. 西多摩予防接種センターとはどのようなものか？

A. 定期予防接種が受けられなかった人への救済事業。

Q. 災害に関しては、もっと上位の取り組み事項にしたほうが良いのではないか？

A. 独立した項目とし、情報を集約する拠点とする。

Q. 資金について。

A. 現在地からの移転となる場合、土地取得と会館建設資金は「会館建設積立金と現有地売却代金」となる。現有地がいつ、いくらで売れるかが問題。近隣土地の売却価格等から推測はできるが、不確実。今後の医師会事業からどの位の土地・建物が必要か、土地購入価格が決まらないとなかなか難しい。

#### ☒まとめ

青梅市へ提出する今後の西多摩医師会の事業内容、ビジョンは、本日の討議内容から一部修正したものを承認。

購入希望の土地の広さは資金との兼ね合いのため、価格の提示がないと決められない面がある

が、おおよそ 300 坪程度で。

今後、具体的な事業内容を詰め、新会館の規模を決めていく。

会員へのアンケートを実施し、参考にしていきましょう。

#### ◎今後のタイムスケジュール

4 月末までに西多摩医師会の基本方針・具体的要望を青梅市へ書面にて提出。青梅市が検討・調整の後、市議会へ提出される予定。

#### ◎次回の準備委員会

5 月 18 日（水）午後 7 時 30 分から、医師会館において。

議題は、「具体的な事業内容の検討」、「新会館の規模について」。

（文責：小机敏昭）

### 連載企画



## 温泉に行こう

瑞穂町 すずき瑞穂眼科 鈴木寿和

皆さんは温泉密度という言葉をご存知だろうか？

先日「たけしの本当は怖い家庭の医学」という番組で温泉の特集をしており、その中で紹介されていたことですが、人口密度と同じように温泉数/面積で都道府県別に表したものです。

多い順に 1 位神奈川県（箱根など）2 位大分県（別府、湯布院など）3 位静岡県（熱海、修善寺など）と続き、4 位に意外にも東京都がランクインしていました。23 区だけだと更に密度は高くなり 58 軒の温泉が存在し、そのほとんどがナトリウム塩化泉ということです。塩分による保温効果と血行促進で冷え性に効果があるそうです。という事で塩化物濃度の濃い順ランキング！

- 1 位 東京天然温泉古代の湯（葛飾区）
- 2 位 東京染井温泉 SAKURA（豊島区）
- 3 位 The Spa 西新井（足立区）
- 4 位 大谷田温泉明神の湯（足立区）
- 5 位 Spa LaQua（文京区）

家庭用の浴槽に換算すると 5 位で塩 7 kg、1 位では実に 8 kg 以上入っているそうです。

ところで番組を観ていて「なぜ 23 区限定なんだ？西多摩地区はどうしてくれるんだ！」という疑問（僻み？）が生まれ、なんとなくインターネットで調べてみました。

奥多摩温泉 三河屋旅館（奥多摩町）

鶴の湯温泉 馬頭館（奥多摩町）

松乃温泉 水香園（奥多摩町）

河辺温泉 梅の湯（青梅市）

十里木・長岳温泉 瀬音の湯（あきる野市）

蛇の湯温泉 たから荘（桧原村）

以上がネットで 4 つ星以上の西多摩地区に存在する温泉です。何件かは行った事がありますが、河辺温泉梅の湯はパッと行くにはアクセスも良いと思います。こんなご時世ですがクラブハウスのお風呂で汗を流してばかりいないでたまには温泉で家族サービスなどいかがでしょうか。経済活動にもなりますし。

# 専門医に学ぶ 第76回

## 胸椎部硬膜外腫瘍による下肢麻痺

公立福生病院 整形外科 医長 加藤 創太

公立福生病院整形外科で脊椎外科を中心に診療に当たらせていただいておりますが、今回は胸椎部の硬膜外腫瘍による両下肢麻痺の事について述べてみたいと思います。というのも、最近立て続けに2例このような症例を経験したのですが、頸椎や腰椎の疾患に比べると胸椎疾患は頻度が少ないため診断が遅れる場合があり、また急激に麻痺症状が進行した場合は迅速な診断治療が必要になるため、下肢の麻痺症状がある患者さんの場合は常に鑑別診断として頭の中に入れておく必要があるからです。

1例目の患者さんは80歳男性ですが、ある日の夕方に突然強い腰背部痛が出現し、その後両足が全く動かなくなりました。翌日未明に当院救急外来を初診されたのですが、初診時には両大腿部以遠の運動、知覚とも完全麻痺の所見で、自尿もまったく不可能な状態でした。大至急脊椎のMRIを撮影した所、写真①のごとく硬膜外になにか腫瘍があり、脊髄が強く圧排されている所見です。

この方に関しては、入院日に緊急手術を行い、腫瘍の摘出および脊髄の圧迫除去を行いました。術中写真が写真②ですが、腫瘍により脊髄が強く圧排されている様子がわかると思います。

術後は幸いにして麻痺症状はかなりの改善が認められ、術後1ヶ月半で自力歩行退院となりましたが、下肢の知覚鈍麻および尿閉は残存し導尿対応です。

ちなみに、摘出した腫瘍の病理結果はなんと血腫でした。出血を来す様な腫瘍成分等は認められず、また抗血栓薬内服などの易出血性要因もない方で、比較的稀な例と考えられます。

2例目の患者さんは63歳女性ですが、2ヶ月程前より原因不明の上腹部痛が続き、その後下肢のしびれや歩行障害が徐々に出現してきました。とにかく上腹部痛が強く麻薬での疼痛コントロールを要する程だったので、当初は外科で入院精査をしていたのですが原因が全くわからず、PET検査で胸椎部に異常集積が認められたため整形外科に

コンサルトとなりました。

よくよく患者さんに聞いてみると疼痛は背部から右側胸部を回って上腹部まであり、胸椎部の神経根からくる症状と考えられました。また両下肢のしびれ感や近位筋の筋力低下、深部知覚鈍麻による歩行障害が出ており、胸椎部での脊髄および神経根障害が強く疑われました。MRI画像が写真③ですが、予想通り胸椎部硬膜外に腫瘍を認め脊髄の著明な圧排像を来しています。

この方は診断2日後に手術を行い、腫瘍の摘出および脊髄圧排の除去を行いました。術中写真は写真④ですが、硬膜外に腫瘍が充満しているのがわかると思います。この腫瘍は被膜のない実質性腫瘍で、実はこの原稿執筆直前に行った手術であるため、まだ病理結果は出ておりません。術中の印象としては悪性腫瘍の転移等を疑います。また一部の神経根が腫瘍に完全に咬み込まれてしまっている状態でした。

術後も強い神経根性の疼痛が残存する可能性があるため、今後も疼痛コントロールが必要になりそうです。また病理結果が出たら、おそらく原因疾患に対する追加精査加療を要する事になると思います。

さて、今回提示した2症例とも早期診断、早期加療がキーポイントかつ問題点になる部分だと考えます。

1例目の患者さんの様に急速に麻痺が出現した患者さんの場合は、いかに早く診断をつけて手術加療に至る事ができるかが最も重要です。術後の麻痺の回復度合いはいかに早く手術できたかにかかっていると、これは日単位ではなく時間単位で対処が必要です。

この患者さんはたまたま平日未明に当院救急外来に搬送されて来たため最速で治療する事ができましたが、例えばこれが休日だったらどうなったか、脊椎手術のできない施設に搬送されていたらどうなったか、治療が遅れてしまう事態も充分想定されます。また、足が動かなくなったという事で、脳血管障害の疑いとして搬送されてくる可能性もありそうです。



専門外の先生であっても、この症例の様な両下肢の横断性の麻痺に出会ったら、胸椎部での脊髄障害を鑑別して思いつく必要があります。そして急速に麻痺が進行する場合は、速やかに専門の治療を行える施設への転送を要するという事です。

また2例目の患者さんについては、症状のうち強い上腹部痛がクローズアップされてしまい、外科でいろいろ精査するも原因が分からないという時期が続いてしまいました。たまたまPETで異常集積が見つかったため整形外科にコンサルトとなり治療につながりましたが、これがなかったらさらに治療が遅れた可能性が高いと思われまます。

以前より下肢のしびれや歩行障害もあった様なのですが、胸椎部での緩徐な脊髄圧迫の場合症状が漠然としたものになりやすく、診断がつくのが遅れがちです。例えば腰椎部で神経が圧迫されると強い坐骨神経痛や腰痛が出る事が多く整形外科で診断がすぐ出来るのですが、胸椎部での圧迫の場合「足全体がしびれる」「なんとなく足が出にくいので歩きにくい」等の訴えになります。このため他科で治療を受けている患者さんの場合、なかなか整形外科にコンサルトとなりにくい様です。

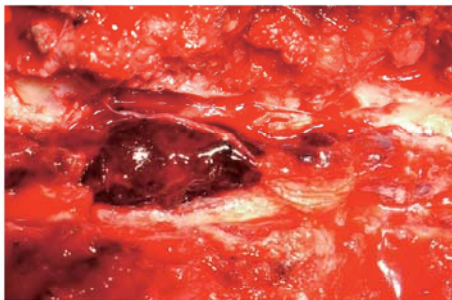
胸椎部での脊髄圧迫疾患は、頸椎や腰椎の疾患に比べ頻度が少なく、また訴えもあまり整形外科っぽくないものになりがちです。ただ、1例目の様な急性増悪の場合も、2例目の様な亜急性～慢性の経過例でも、とにかく早期に診断をつけて治療につなげる事が大切です。専門外の先生方にも、歩行障害や下肢の筋力低下、知覚鈍麻などを訴える患者さんに遭遇したら、胸椎部での脊髄圧迫疾患の可能性を頭の片隅においていただければ幸いです。

写真①：症例1のMRI



左が初診時。第11胸椎～第1腰椎高位の硬膜外に腫瘤を認め、脊髄を圧排している。右は手術後。腫瘤がなくなっているのがわかる。

写真②：症例1の術中写真



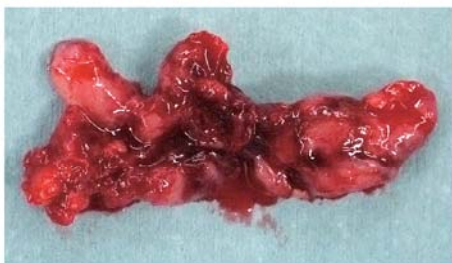
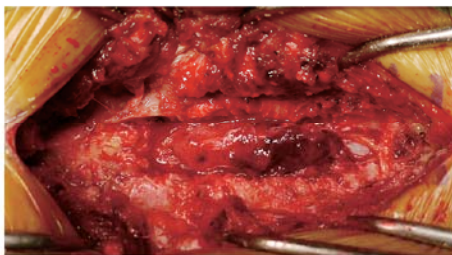
横に通っているのが脊髄(硬膜)。腫瘤に圧排されている。

写真③：症例2のMRI



第7胸椎～第9胸椎高位に硬膜外腫瘤および脊髄の圧排像あり。Axialでは腫瘤が右側椎間孔まで侵入している。

写真④：症例2の術中写真



中央部分が腫瘍。右側に見えるのが脊髄(硬膜)。下写真は摘出した腫瘤。

◆ 3月定例理事会 平成23年3月22日(火)

東日本大震災後の計画停電の影響にて急遽延期

一部の協議事項のみ郵送にて承認を求めた。

1. 小山公認会計士事務所とのコンサルタント業務委託契約書の締結について承認を求める件

—— 承認 ——

● 理事会報告 ●

★ Information ●

3月定例理事会

平成23年3月29日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・田坂・鹿児島・野本・川間・蓼沼・江本・川口・山川・宮城・近藤・池谷・岩尾・松原〕

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長連絡協議会報告

都医からの伝達事項

①東北地方太平洋沖地震に伴う対応について

義捐金のお願い

DMAT、JMAT への登録依頼について

医師、看護師、事務員を1チームとして登録し衣食住はすべて自己調達し現地へ行くこと、また衛星携帯電話、スタッドレスタイヤをはいた車で被災地入りして現地の医療機関の指示の元活動を行うこと

②東京都医師会感染症リアル・タイムサーベイランスに係わるアンケート調査の実施について

③パンフレット「もしものときに・・・子どもの心のケアのために」の送付について

④日本医師会認定産業医制度における研修会の開催予定について

⑤東京都医療連携手帳（前立腺がん）について

PSA 手帳・算定は不可

⑥「これからの在宅医療に対する新たなアプローチ——かかりつけ医機能ハンドブック別冊——」について（4月上旬配布済）

⑦「介護職員・地域ケアガイドブック——医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ——」について（4月上旬配布済）

⑧第28回日本医学会総会の開催（見直し）について

電子媒体等、Net 上での開催を検討

2. 各部報告

総務部 3/10 地域糖尿病医療連携検討会報告

3/14 東京電力による「輪番停電」の実施について

3/14 「臨床報告会 3/15」「会館建設準備委員会 3/17」

「糖尿病医療連携健康講座 3/19」「学術講演会 3/17」

「脳卒中医療連携市民公開講座 3/24」各中止について配信

3/15 人工呼吸器を利用する在宅医療患者の緊急窓口の設置について

3/17 東北地方太平洋沖及び長野県北部の地震による被災者に係る一部負担金について

3/17 今般の計画停電などに伴う経口生ポリオワクチンの措置について

3/17 定例理事会（3/22 中止に伴う）協議事項について

3/18 平成 22 年度第 2 回定時総会開催場所及び時刻の変更について

3/22 東北地方太平洋沖及び長野県北部の地震による被災者に係る一部負担金について

病院部 2/18 第 9 回市民フォーラムの精算報告について  
病院会と折半して 101,744 円を負担する

学術部 3/15 学術 3/24 パネルディスカッション延期

学校医 健診事業は計画停電により日程が直前に変更される可能性有り

### 3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青梅市 3/14 幹事会開催・一般法人登記完了  
3 種混合ワクチン接種について  
市の補助金について

福生市 一般法人登記完了 医師会設立による休日診療所変更中

羽村市 3/15 総会開催  
次年度事業計画の承認 一般法人成立については継続審議

あきる野市 一般法人登記完了 3/14 例会

瑞穂町 3/24 保健センターにて打合せ、休日準夜診療について検討  
日の出町

### 4. その他報告

1) 平成 23 年度休日・全夜間診療事業参画医療機関選定結果について

2) 都立小児総合医療センターについて

（会議出席の新井敏彦先生から書面により報告）

## 【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

2. 平成 23 年度瑞穂町学校医・眼科医の委嘱（前年度同様） —— 承認 ——

3. 東京都医師会代議員及び予備代議員候補者について（告示配布済）

## 【3】協議事項

1. コンサルタント業務委託契約書（案）及び契約締結について

（理事・役員配布済、3 月 22 日協議予定であったため郵送にて承認済、再確認）

2. 東北地方太平洋沖地震義捐金について

4 月中に集計し都医に送る

3. その他

4/13（水）第 9 回会館建設準備委員会開催予定

**4月定例理事会**

平成23年4月12日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・田坂・鹿児島・野本・川間・蓼沼・江本・川口・山川・宮城・近藤・池谷・岩尾・足立・松原〕

**【1】報告事項****1. 各部報告**

- 総務部 4/5 東北地方太平洋沖地震及び長野県北部地震に関する保険診療報酬等の請求の取り扱いについて配信  
4/11 東京都医師会役員などの選挙告示について配信
- 産業医 日医産業医研修会 7/23 (土) 青梅市立総合病院にて開催 (予定)
- 学術部 ○延期されていた  
パネルディスカッション 6/16 (木)  
臨床報告会 6/21 (火)  
各々福生病院多目的ホールにて開催  
○公立福生病院、医師会合同症例検討会 (福生病院) 6/30 (木)
- 経理部 4/22 (金) 経理部会、4/25 (月) 会計監査会  
(いずれも平成 22 年度収支計算などについて)

**2. 地区会よりの報告 (各地区理事)**

- 青梅市 4/15 一般法人化後最初の理事会を開催  
(事業計画、予算案、入会会員の件、定款施行規則、  
小山会計事務所との事務委託契約)
- 福生市 23 年 4 月より休日診療所を一般社団法人福生医師会立とする  
子宮頸癌、小児肺炎球菌、ヒブワクチンについて同時接種・単独接種の件について  
公立福生病院 松山副院長を講師に研修する
- 羽村市  
あきる野市  
瑞穂町  
日の出町

**3. その他報告**

- 4/28 (木) 都医代議員会 (臨時) 日医会館にて開催、  
議事 ―― 会長選挙等について  
出席者の確認 (横田卓史代議員、真鍋勉代議員、鹿児島武志予備代議員)
- 6/11 (土) 西多摩三師会総会・講演会・懇親会出席依頼について (フォレストイン昭和館)

4/8 (金) 都医学校医会報告 (進藤晃委員)

平成 23 年度事業計画、同予算、学校医評議員の選出、会費賦課徴収案、その他協議事項すべて承認

## 【2】報告承認事項

1. 入会会員について — 承認 —

## 【3】協議事項

1. 平成 23 年度各部事業報告書 (案) について

— 次回理事会までに内容確認し承認を受けることとした —

2. 平成 22 年度西多摩地域脳卒中医療連携事業実施報告 (案) 及び同 22 年度西多摩地域糖尿病医療連携事業実施報告 (案) の承認について (4/11 までに西多摩保健所を通じて東京都に提出のため経理報告のみ協議) — 承認 —

3. 1) 平成 23 年度西多摩地域脳卒中医療連携事業検討会座長について

小机クリニック 小机敏昭先生を推薦する (継続就任) — 承認 —

2) 平成 23 年度西多摩地域糖尿病医療連携事業検討会座長について

野本医院 野本正嗣先生を推薦する (継続就任) — 承認 —

4. 労災保険診療費審査委員会委員の推薦について — 継続協議 —

次回理事会までに適任者があれば推薦 (継続案件とするが推薦無しでも可)

5. その他

○ 東京都医師会会長及び役員改選に伴う演説会出席依頼について

横田会長、鹿兒島副会長、真鍋理事出席の 3 名が出席

○ 4 月第 2 回目の理事会 (4/26 火) は移動理事会とする

○ 5 月定時総会前の講演会について

公立福生病院 宮崎洋史先生 演題「消化器内視鏡でできること」

○ 現在義捐金集計残高 (4/12 現在 40 口 3,360,000 円)

○ 東京都医師会感染症対策委員会の終了 (平成 22 年度蓼沼委員) について (蓼沼理事)

○ 西多摩医師会の義捐金について

3 月の定時総会会場がフォレストイン昭和館より西多摩医師会館に変更された為

(大震災・計画停電により) 総会費用分程度 (50 ~ 60 万円) を出損する

○ 4 月より川上正人理事出席 (青梅市立総合病院)

氏名 酒井 直之  
勤務先 (医社) 悦伝会 目白第二病院

氏名 淵向 律子  
施設名 ふちむかい眼科  
所在地 福生市加美平2-14-20  
出身校 岩手医科大学 昭和62年3月卒

### 【新規開業】

氏名 進藤 幸雄  
施設名 (医財) 利定会 進藤医院  
所在地 青梅市千ヶ瀬町6-797-1  
出身校 東海大学 平成3年卒

### 【廃業】

氏名 館野 進  
施設名 館野婦人科皮膚科クリニック

## お知らせ

### 事務局より お知らせ

平成23年6月(5月診療分)の

保険請求書類提出

**6月8日(水)**

— 正午迄です —

### 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を  
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に  
ご相談ください。

- ◎相談日 5月は11日(水)  
6月は8日(水)の予定です。
- ◎場所 西多摩医師会館和室
- ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・  
刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。  
(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

### 表紙のことば



#### 「オダマキ」

民家の庭先に咲くオダマキ  
です。サクラソウ(恐らく)  
の赤紫色を前景に入れてアク  
セントをつけてみました。

田村啓彦



## あ と が き



悪夢のような震災からすでに1ヶ月以上経ちますが、誌面のトップに震災関連の記事が出ない日はなく、驚愕、恐怖、慟哭、憤怒、諦念、不安、などの言葉が一面の大見出しとなっています。

未曾有で歴史上例をみない災害に見舞われたにもかかわらず、避難生活を余儀なくされている被災者のとった冷静な行動と、相手を思いやる気持ちでお互いに助け合おうとする態度は、諸外国のメディアから驚きと高い称賛を持って評価された一方、一連の原発関連の対応に対しては、政府や東電の情報公開の在り方と初動の対応の決断の遅れに対して国内外を問わず厳しい評価がなされました。

4月21日現在で、死者1万4133名、行方不明1万3346名、被災者13万2571名、津波による浸水総面積は東京23区の約9割に達するといわれています。衣食足りて礼節を知るといいますが、真逆の状況に置かれている災害地の人々の口々からもれる「ありがとう」の感謝の言葉はテレビ画面から目をそらすことができない視聴者に大きな感動を与えました。残された被災者の人々のなかには「もう、頑張ろうというのは止めてくれ……この状況で今後何をどう頑張ればいいのか？」という茫然自失の声も当然のごとくありました。また昨日はテレビのインタビューに答えて、牡蠣養殖業者が「今はだめだが、もう三年待ってくれ。きつとうまい牡蠣を食わせてやるから……」と復興への強い決意の言葉を発し、逆に勇気と力を与えてもらったような気がしました。

前途の見通しの全く立たない避難所生活の中、家族の絆、生計の基本、生まれた土地を根こそぎ奪われた人々の思いは壮絶かつ多様であり、津波の様子は映像だけでなく記憶として繰り返され、生き残ったものに新たな恐怖心を湧き起こさせます。大人に限らず、乳幼児から小学生に至るまで、彼らの中には適切な表現をできずに、外見は元気そうでも人知れず、成人と同じように精神的、身体的な症状が出てくると聞きます。

震災後すでに40日が過ぎようとしている現在、政府はもとより、国民の強力な支援体制の継続は今後も一層必要とされます。(その内容が増税か国債か、はたまた電気料金を含めた公共料金の値上げかは分りませんが?) まだ復興への道のりはその一歩が始まったばかりです。なおかつ今後もこのような地震災害はいつ何時でも十分起こりうることを思うと、すでに事態は決して人ごとではないと、うとい自身に言い聞かせています。

言葉では言い尽し難いほどの日本史上に残るこのたびの震災で尊い命を奪われた方々のご冥福を祈ると同時にこの国難を必ずや克服し、明日の日本を担う次世代に希望と幸せを与える努力を怠っては国の未来はありません。一隅を照らすという言葉がこれほどびたりと当てはまることは他にないと思います。

鹿児島武志

社団法人 西多摩医師会

平成23年5月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23) 2171・FAX 0428(24) 1615

会報編集委員会 近藤 之暢

鹿児島武志 江本 浩 鈴木 寿和 馬場 眞澄 菊池 孝  
桑子 行正 土田 大介 奥村 充 渡邊 哲哉

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22) 3047・FAX 0428(22) 9993



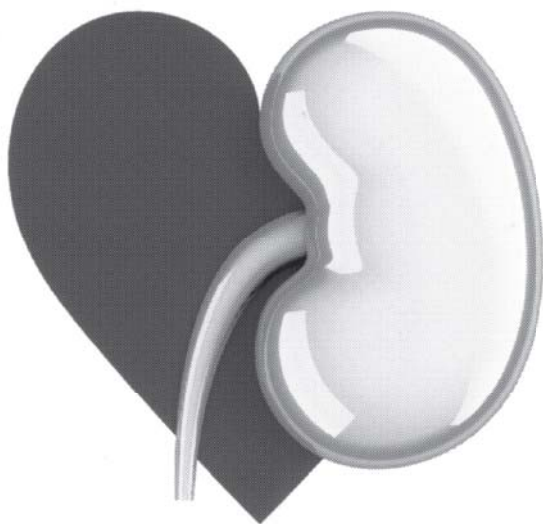
一般医薬品  
医療機器卸

# 酒井薬品株式会社

福生営業所 〒197-0013 東京都福生市武蔵野台2-34-4  
TEL (042) 553-3211 (代)

本社 〒181-8551 東京都三鷹市野崎1-11-22  
TEL (0422) 47-2131 (代)

営業所 小平・八王子・町田・川越・相模原・伊勢原



長時間作用型ARB

薬価基準収載

## イルベタン錠 100mg / 50mg

イルベサルタン錠  
IRBETAN®

指定医薬品、処方せん医薬品<sup>(※1)</sup>

注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

経銷

sanofi aventis



製造販売元【資料請求先】

シオノギ製薬

Metabolic & CV

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045  
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)  
<http://www.shionogi.co.jp/med/>

- 「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

®: サノフィ・アベンティスグループ登録商標  
2009年1月作成



## 健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……  
**(株)武蔵臨床検査所**

食品と院内の環境を科学する  
**F・S サービス**

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8  
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659

## 「西多摩医師会」会員の皆さまへ

東京厚生信用組合は  
福祉・医薬・医療・環境  
衛生の関連事業者の  
発展に寄与してまいります。

東京厚生信用組合は、  
医療関連事業を営む皆様を  
対象として、1953年に設立された  
協同組織の金融機関でございます。

既に各地区医師会で多数の会員の皆様に  
ご利用頂いております。これからも、  
会員の皆様に密着した金融機関として  
努力して参ります。



安心と信頼の  
パートナー

貴重なお時間を有効にお使い  
いただくため、訪問による相談  
業務を得意としております。

お問い合わせは：医師会様担当 落合まで  
●本部〈フリーダイヤル〉

0120-294805

### ご融資

- クリニック運営資金
- 学術研究資金
- ご子息の教育資金
- 記念パーティー等の資金
- お車購入資金
- その他どんな事柄でも  
ご相談くださいませ。

都医ニュースでお馴染みの「東京厚生信用組合」です。



「人間・福祉・環境」にやさしい  
**東京厚生信用組合**

本店 新宿区西新宿6-2-18/浅草支店 台東区駒形1-1-12  
小平支店 小平市美園町1-31-1/青梅支店 青梅市河辺町10-8-3